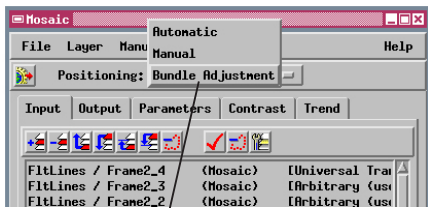


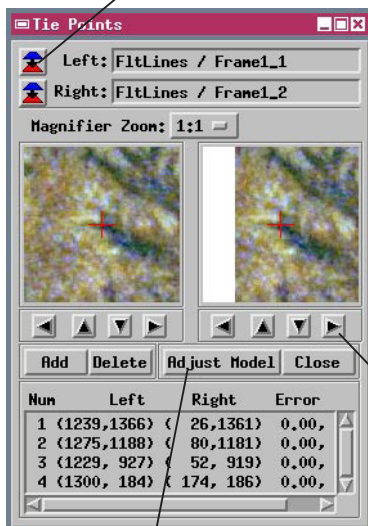
新しいモザイクのモード マニュアル位置合わせとバンドル調整



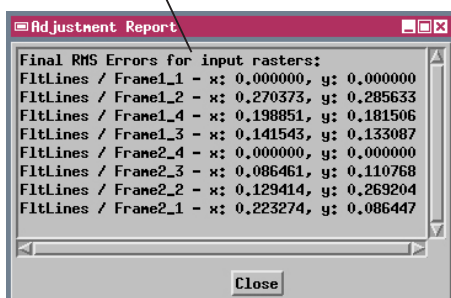
① 入力画像をモザイクするため、位置合わせのオプションを選択します。“マニュアル”か“バンドル調整”モードを選択した場合のみ、ジオリファレンスのないオブジェクトを入力リストに追加することができます。

② “バンドル調整”モードは複数の画像片をモザイクするのに使うことができます。この例では、左下と右上の画像のみがジオリファレンスされています。(テストのため全ての画像は1つの大きな画像から抜き出して作りました。)[マニュアル位置合わせ] ツールを使って、タイポイントを置き易いように入力ラスタを都合の良い位置にドラッグします。位置合わせの情報は、モザイクのレイアウトを保存すると保存されます。

③ “バンドル調整”モードでは、タイポイントを置くために一組の画像を指定します。入力リストで画像名を選択し、(タイポイント)ウィンドウ上部のボタンを使ってその画像が左 (Left) か右 (Right) かを割り当てます。



⑤ 複数の画像ペアにタイポイントを配置した後、[モデルの調整] ボタンを押します。配置結果を表示ウィンドウに表示したり、入力オブジェクト毎に配置エラーを見ることができます。



モザイク処理では適切な位置合わせのモードを使うことで、ジオリファレンスされていないラスタをモザイクしたり、ジオリファレンスされたものとされていないものが混在したラスタをモザイクすることができます。“マニュアル (Manual)”モードでは、ジオリファレンスされていないオブジェクトを希望する相対的な位置にドラッグや回転、拡大縮小してモザイクすることができます。“バンドル調整 (Bundle Adjustment)”モードは、飛行経路に沿った短冊状の空中写真のように、十分なグラウンドコントロールポイントがなく、個別にジオリファレンスすることができないような画像をモザイクする際に便利です。オーバーラップしている一組の入力画像に対して少なくとも3点のタイポイントが必要です。画像はジオリファレンスされていなくても、混ざっていても構いません。[モデルの調整 (Adjust Model)] の操作により、与えられたコントロールポイントとタイポイントを使って最小自乗法による最適近似を計算します。入力画像は表示ウィンドウに再表示され、最適な位置が示されます。チェックしてタイポイントを追加するか、あるいは最終的なモザイクとします。以前からあった“自動 (Automatic)”オプションでは、各入力オブジェクトはジオリファレンスされている必要があります。ジオリファレンス情報を使ってオブジェクトは自動的にモザイクされます。



④ 現在の左 (Left) と右 (Right) の画像が斜線のハッチで示され、画像ペアに対してタイポイントの位置と番号が自動的に表示されます。表示ウィンドウの [コレスポнда] ツールを使って一組のタイポイントを大体の位置に配置し、それから (タイポイント) ウィンドウの中の拡大画像を使って微調整をします。矢印ボタンをクリックすると、画像の上の拡大ウィンドウが指定した方向に移動します。



⑥ 8 個の画像に対するバンドル調整の結果